

◇アジア・オセアニアオフィス活動報告◇

## アジア・オセアニアオフィスの新たなスタート

IFRS 財団アジア・オセアニアオフィス  
ディレクター 高橋真人

### 1. はじめに

2022年8月1日、IFRS 財団と Value Reporting Foundation (VRF) は統合し、同日付けで旧 VRF のスタッフ 3 名がアジア・オセアニアオフィスに配属された。2022年9月1日には、小森博司氏が国際サステナビリティ基準審議会 (ISSB) 理事に就任し、アジア・オセアニアオフィスに常駐する。小森博司 ISSB 理事と 3 名の ISSB スタッフを迎え、アジア・オセアニアオフィスの新体制がスタートする。本稿では、2022年8月末までの IFRS 財団及びアジア・オセアニアオフィスの最新動向を報告する。文中、意見にわたる部分は、筆者の私見であり、IFRS 財団の公式見解ではないことをお断りする。

### 2. IFRS 財団と VRF の統合

#### ・開示基準の収斂

VRF は、2021年6月に、Sustainability Accounting Standards Board (SASB) と International Integrated Reporting Council (IIRC) が統合して設立された財団である。VRF は、SASB が開発した SASB 基準、IIRC が開発した統合報告フレームワーク、統合的思考原則を所有していたが、今回の IFRS 財団への再統合により、これらの基準等の帰属先は IFRS 財団になった。

VRF との統合に先立ち、IFRS 財団は、2022年1月に Climate Disclosure Standards Board (CDSB) との統合を完了している。2回の統合で、IFRS 財団は、旧 5 団体 (CDP、CDSB、Global Reporting Initiative (GRI)、IIRC、SASB) のうち 3 団体を吸収合併したことになる。また、GRI とは、協力協定を締結し、両者間で可能な限り調整を行っていくことを合意している。

#### ・マルチ・ロケーション

VRF との統合により、VRF の中核拠点であったサンフランシスコが ISSB のマルチ・ロケーションに加わった。ロンドンも、IFRS 財団の本拠地であるとともに、CDSB、VRF の拠点でもあった。一連の統合後、ISSB のマルチ・ロケーションの所在国は、5 カ国 (ドイツ、カナダ、米国、英国、日本) となった。中国は未定である。

IFRS 財団のスタッフ組織は、従来、IASB とオペレーション (管理部門) の 2 部門で構成されていたが、今後は、IASB、ISSB、オペレーションの 3 部門になる。IASB 部門は、従来通り、約 70 名のテクニカルスタッフで構成される。ISSB 部門は、基準設定チーム、統合報告・コネクティビティチーム、マーケット・エンゲージメントチーム等約 40 名で構成される。

ISSB の基準設定チームの内部は、開発する基準ごとにプロジェクトチームが編成される模様である。現在は、気候チームと全般的要求事項チームが組成されているが、各チームに所属するスタッフは、米国、

英国、ドイツ、日本等に分散している。統合報告・コネクティビティチーム、マーケット・エンゲージメントチームも同様である。

### ・アジア・オセアニアオフィスの変化

アジア・オセアニアオフィスに加わった 3 名は、国内の監査法人から VRF に出向していた日本人の公認会計士である。3 名とも、日本から VRF(ロンドン、サンフランシスコ)へのリモート出向であったが、統合後は、アジア・オセアニアオフィスに出向していただくことになった。

高橋範江さんは、あずさ監査法人で IIRC の業務を兼任していたが、2022 年 6 月に VRF への常勤出向となり、現在は、ISSB の統合報告・コネクティビティチームに所属している。河合哲史さんと細田友貴子さんは、2022 年 3 月、4 月にあらた監査法人から VRF に常勤出向し、現在は、ISSB のマーケット・エンゲージメントチームに所属している。3 名とも、統合前と同じ上司(ロンドン、サンフランシスコ在)の下で同じ業務を担当するが、今後は、アジア・オセアニアオフィスとしての業務も担当していただくことになる。

## 3. 小森理事の就任

### ・日本人理事の選任

2022 年 8 月 23 日に小森博司氏を含む 3 名の ISSB 理事の選任が発表され、8 月 31 日に 2 人目の ISSB 副議長にジンドン・ファ氏の選任が発表された。これで、理事 14 名全員が決まった。2022 年 7 月に開催された第 1 回 ISSB ボード会議は、その時点までに就任済の理事だけで開催された。小森理事は、2022 年 9 月の第 2 回ボード会議から参加する。

小森氏は、埼玉銀行(現りそなホールディングス)ロンドン支店勤務を経て、1990 年に住友信託銀行(現三井住友信託銀行)に入社し、証券代行コンサルティング部審議役、理事を歴任した。2015 年に年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)に任用され、スチュワードシップ・ESG 部門を立ち上げ、2022 年 3 月に退職するまで、同部門を統括した。小森氏を ISSB 理事に推す声は、国内だけでなく海外の投資家からも多くあった。

小森理事は、2022 年 9 月 1 日就任後、アジア・オセアニアオフィスに常駐し、アジア・オセアニア地域におけるエンゲージメントも担当することが決まっている。小森理事以外の ISSB 理事がアジア・オセアニアオフィスに常駐するかどうかは、現在未定である。

### ・アジア・オセアニア地域戦略

IASB では、アジア・オセアニア地域枠選出の理事(オーストラリア、中国、日本)が地域コミッティーを組成し、地域におけるエンゲージメント戦略を議論している。ISSB の場合、アジア・オセアニア地域枠選出の理事は、ビン・レン理事(中国)、テヨン・パイク理事(韓国)、小森博司理事(日本)の 3 名である。副議長は、全世界枠選出であるが、スー・ロイド副議長はニュージーランド、ジンドン・ファ副議長は中国出身である。ISSB のアジア・オセアニア地域戦略は、これらの理事を中心に議論されることが考えられる。

## 4. 公開草案へのコメント

### ・700 通のコメントレター

ISSB の全般的要求事項基準(S1)、気候関連基準(S2)の公開草案に対するコメントの募集は、2022 年 7 月 29 日に終了した。S1、S2 にそれぞれ約 700 通のコメントが寄せられた。そのうち、アジア・オセアニア地域からは、S1、S2 にそれぞれ約 100 通のコメントがあった。日本からは、S1、S2 にそれぞれ約 20 通のコメントがあった。

日本からは、サステナビリティ基準委員会(SSBJ)、経産省非財務情報の開示指針研究会、ESG 情報開示研究会(EDSG)、日本公認会計士協会(JICPA)、日本経済団体連合会、日本証券アナリスト協会、日本CFA協会のほか、銀行、生保、損保、証券、鉄鋼、石油、ガス、セメント、海運、貿易など多くの業界団体がコメントを提出した。

現在、ISSB のスタッフがコメントレターの分析・分類作業を行っている。分量が多いため、最終的な分析にはまだ時間を要すると思われるが、初期的な分析結果は、2022 年 9 月の ISSB ボード会議で報告されるはずである。

### ・日本からの意見

公式な分析ではないが、アジア・オセアニアオフィスのスタッフが、日本から提出されたコメントレターに目を通した限りでは、以下の項目に関する指摘が比較的多かった。

- ・重大なサステナビリティ関連リスクと機会の識別
- ・S2 基準の付録 B(業種別開示項目)
- ・財務報告とサステナビリティ報告の同時開示、報告対象期間の一致

## 5. 今後の予定

### ・ISSB ボード会議

2022 年 9 月 19-23 日に、フランクフルトで第 2 回 ISSB ボード会議が開催される。ISSB のボード会議は、基本的にフランクフルトとモンテリオールで交互に開催されるが、年に 1 回程度は、それ以外のオフィスの所在地で開催することが計画されている。

### ・評議員会議

2022 年 10 月 25-27 日に、韓国ソウルで IFRS 財団評議員会議が開催される。評議員会議には、IASB、ISSB 両議長も出席するが、エマニュエル・ファベール ISSB 議長は、ソウルでの会議の後、東京を訪問することを検討している。来日が決まれば、ISSB 議長として初の来日となる。

2023 年 2 月 28 日-3 月 2 日に、東京で IFRS 財団評議員会議が開催される。エルツキ・リーカネン評議員会議長と全評議員、IASB、ISSB 両議長・副議長、財団事務局長などが来日する。

### ・ISSB の作業計画

今のところ、ISSB の作業計画に変更はない。S1、S2 基準案は、ISSB での審議が順調に進めば、2022 年内に最終基準化される予定である。ISSB のアジェンダ協議は、2022 年 10-12 月に開始される予定である。

## 6. おわりに

IFRS 財団は、VRF との統合を機に、ウェブサイトを更新し、パワーポイントのデザインも刷新した。ロゴには、Foundation、Accounting、Sustainability の文字が入った。IFRS 財団の新しい出発を象徴している。アジア・オセアニアオフィスは、小森理事と 3 名の ISSB スタッフを迎え、常勤者が 4 名から 8 名に拡大した。アジア・オセアニアオフィスの新しい出発である。引き続き、アジア・オセアニアオフィスへのご支援をお願いする次第である。

以上